



宮城学院広報  
MIYAGI GAKUIN

vol.  
157

2017.10

# Glory to God

巻頭言

グローバル・  
サーバント・リーダーの  
養成を目指して

学院長 嶋田 順好

MG TOPICS

卒業生紹介

宮本 瞳さん

齋藤 由布子さん

タイトル「Glory to God」は宮城学院の校歌「天にみ栄え」の英訳であり、本学院のキリスト教精神を象徴する言葉。旧東三番丁キャンパスの講堂内にも、この言葉が掲げられていた。

# グローバル・サーバント・リーダーの養成を目指して

学院長 嶋田 順好

サーバント・リーダーシップという言葉が初めて聞かされたのは、2002年に当時資生堂社長をしておられた池田守男氏からでした。池田氏は異色の経営者で若かりし日に牧師となるべく東京神学大学で学ばれた経歴を持っておられ、銀座教会の忠実な信徒でもありました。今でもその講演に聴き入った時の新鮮な感動が忘れられません。なぜかと言えば、主イエスが「仕えられるためではなく、仕えるために、また多くの人の身代金として自分の命を献げるために来たのである」(マルコ10・45)と告げられたことを、これほど明瞭にわかりやすく表現する言葉もないと深く納得させられたからです。

いまではこの言葉に「グローバル」という言葉も付加されて、いたるところで用いられるようになり、いささか手垢がついてしまった感がなきにしもあらずです。しかし、この言葉を主イエスの隣人愛の歩みとの関わりで深く掘り下げて受けとめ続けることは、ミッション・スクールとしての宮城学院に連なる者たちにはとても大切な課題かと思えます。その関連で宮城学院の使命を思いめぐらすとき、ただ単にグローバルということではなく、グローバル・サーバント・リーダーの養成に心を注ぐことが、今の時代にはとても重要な使命ではないかと思われるようになりました。つまり、地域に根差しつつ、地球市民として歩む者の育成ということなのです。

グローバル化には光と陰があります。科学技術の後進国への移転に伴い、先進国には産業の空洞化がもたらされ、そのプロセスで先進国内にも、経済格差、地域間格差が生み出されてしまいました。その矛盾が、英国のEU離脱や米国大統領選に典型的に表れ、つまるところグローバル化とは反対の自国至上主義を引き起こして、それが世界のリスク要因となっています。日本も例外ではありません。

内村鑑三が、自らの墓碑銘にI for Japan; Japan for the World; The World for Christ; And All for God. と記したことはつとに知られていますが、今の時代はそれだけでは不十分で、わたしたちには、この言葉の冒頭に“I for Miyagi”を加えることが求められていると思うのです。もちろん仙台・宮城の地以外に住んでいる方々であれば、各々の住んでいる地名を入れて読むということになるでしょう。

地産地消という言葉は、「地域の産物を地域で消費する」ことを意味します。しかし、この四字熟語を「地域の産物、文化、伝統を地球規模で消費して(用いて)もらう」とことと理解することも可能でしょう。東京一極集中を克服し、地球規模で地域を元気にする道を開拓する想像力と創造力を持ったグローバル・サーバント・リーダーを育成すること、それこそが今、この時の宮城学院の使命ではないでしょうか。



## ＊「宮城学院女子大学 さくらレオクラブ」が誕生！

宮城学院女子大学に、仙台青葉ライオンズクラブをスポンサークラブとする「宮城学院女子大学さくらレオクラブ」が誕生しました。8月3日(木)には「結成確認書伝達式」が行われ、レオクラブメンバーのほか、仙台青葉ライオンズクラブのメンバーでもある郡和子仙台市長など総勢100名以上が出席し、新たな門出を祝いました。メンバー一同は、スローガンである「咲かせよう 奉仕の心」の下、奉仕活動に励むことを誓いました。2日後に行われた「仙台七夕花火祭」では、熱中症予防のために1600本を超える飲料水を配布するなど、早速奉仕活動に取り組んでいます。



## ＊「2017年度 宮城学院女子大学 後援会総会」開催！

5月27日(土)、2017年度の宮城学院女子大学後援会総会が開催されました。この総会は在学生の保護者の方々に、本学の学生支援体制や学生生活をより深く理解していただくため、年1回開催されています。当日は総会のほか、音楽科によるミニコンサート、学生によるミニキャンパスツアー、本学学生生活・就職状況報告、就職内定者による就職体験報告、学科クラス懇談会、就職個別相談会など、盛りだくさんの内容でした。



## ＊「小池昌代×池上冬樹 特別対談」開催！

7月6日(木)、詩人の小池昌代さんと池上冬樹先生(本学非常勤講師)による一般公開作家特別対談(主催:日本文学科)が開催されました。古典文学から現代文学まで話題は多岐にわたり、400名近い来場者は、お二人の話に熱心に耳を傾けました。対談の中で、お気に入りという式子内親王の「山深み 春とも知らぬ 松の戸に たえだえかかる 雪の玉水」という歌を学生に贈ってくださった小池さん。貴重な学びの時間になりました。



＊ 大学祭が開催されました

10月14日(土)・15日(日)、金木犀の甘い香りに包まれたキャンパスで宮城学院女子大学大学祭が開催されました。ステージ、テントそして教室の各会場では盛りだくさんの企画を用意し来場者の皆さんを迎えました。おもちゃのコーナーではお父さんやお母さんと一緒にお子さんが水ヨーヨーつりに挑戦したり、ぶんぶんゴマを楽しむ企画が好評でした。講義館前のテントでは軽食からスイーツまでさまざまな模擬店が出店し、美味しそうな香りが漂っていました。大学祭イメージキャラクター「みゃーがくちゃん」も来場者の皆さんと触れ合い大学祭を盛り上げていました。中夜祭企画のお化け屋敷には長蛇の列ができ、順番を待つ人でにぎわいました。

今年度のテーマ『tutti～共に奏でるハーモニー～』のとおり、ご来場いただいた皆さまと「一緒に」大学祭は大盛況のうちに無事に終了し、打ち上げ花火が夜空を彩りました。



＊ 中高文化祭が開催されました

8月26日(土)、校内発表を行いました。今年のテーマは「翔ける」。宮城学院は創立131年目を迎え、これまでの伝統を大切に、131年目の新たなステージへはばたいていきたいという思いが込められています。校内発表では、音楽班、ハンドベル班、オーケストラ班、演劇班、ダンス班などがこの文化祭に向けて練習してきた成果を披露してくれました。今年度からはオーケストラの弦楽部門に加えて管楽部門も発足し、両部門を統合したオーケストラ班の発表はとても迫力がありました。各班とも工夫した内容で皆で楽しめました。文化班の皆さん、ご苦労さまでした。

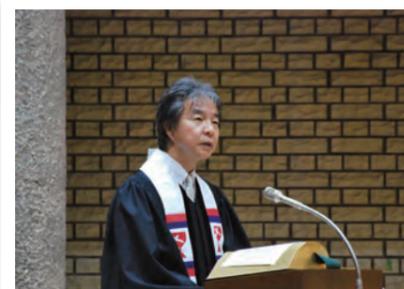
8月27日(日)は一般公開。天候にも恵まれ、昨年を上回る1,124名の方々をご来場くださいました。日常の学習や部活動の成果、クラスの繋がりを、はじけるパワーで皆さまにお届けすることができました。文化祭実行委員会を中心にMG生が一丸となって作り上げた文化祭、各々が翼を広げ新しいステージへ翔ける日となりました。多数ご来場いただきありがとうございました。



＊ 創立記念礼拝が行われました

9月18日(月)10時より礼拝堂において創立記念礼拝が行われました。嶋田順好学院長から「ただ主の愛のゆえに」と題してお話をいただいた後、永年勤続者の紹介が行われ、長年にわたる貢献をたたえて宮城光信理事長より表彰状と記念品を贈呈しました。つづく記念講演では講師に出村彰先生をお迎えし、「20世紀のマルティン・ルター 恩師ペイントン博士に学ぶ」と題してお話をいただきました。

午後に執り行う予定だった北山キリスト教墓地での墓前礼拝は、前日からの台風の影響のため、場所を変更し礼拝堂で行うこととなりました。大久保直樹中高宗教主事の説教の後、初代校長ブルボー先生のご献身に思いを馳せながら記念碑前に献花をいたしました。



創立記念礼拝～墓前礼拝スケジュール

創立記念礼拝	午前10時(礼拝堂)
永年勤続表彰	記念礼拝終了後(礼拝堂)
記念講演	午前11時(礼拝堂)
昼食会	午後0時(学生食堂 ピエリス)
墓前礼拝	午後1時30分(礼拝堂)
献花	墓前礼拝終了後(ブルボー記念碑前)

2017年度聖句

「わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。」

ヨハネによる福音書 第15章12節

＊「宮城学院女子大学音楽リエゾンセンター」の活動

2016年4月、「音楽の宮城」の力を広く活用するため、「音楽リエゾンセンター」(MLC)が設置されました。地域と大学をつなぐ(liaison)二つの事業、「認定演奏員制度」と「楽友ネットワーク」。学内では、大学の新たな全学共通教育MGUスタンダード科目のひとつ「音楽の世界」の運営サポートなどを中心に、活動実績を重ねています。

認定演奏員制度は、本センターがオーディションで厳選した演奏者を、地域の行事や教育活動にご紹介する制度。文化・福祉施設、幼稚園などの教育機関、本学の同窓会支部総会などから次々ご要望が寄せられ、ご好評を頂いています。楽友ネットワークは、ジャンルも音楽との関わりかたも問わない音楽愛好家のゆるやかなつながりをつくる制度。クラシック、合唱、ジャズ、邦楽、和太鼓、音楽評論、楽器製作など、さまざまな形で音楽とともに生きる「楽友」が集っています。

地域の音楽文化の新たな拠点として、活動を広げていきます。



仙台市内幼稚園で演奏する認定演奏員



楽友ネットワーク交流会／創作和太鼓グループの演奏

＊森のこども園では不思議がいっぱい！  
感動もいっぱい！

移転してからのこども園の生活は、普通の生活に喜びや感動の連続でした。園舎東側の森では早春にフキノトウが顔を出し、カタクリの花が一面に咲いていました。大きな山桜から散った花びらが屋根にも積もり、風で一斉に舞い上がりました。子ども達から思わず歓声が沸くほどでした。

子ども達には日々の生活を通して、季節が一番美しい状態を見逃さずに生活できる幸せがあります。夏には青々とした芝生の上にスプリンクラーが2台回って、盛大に水遊びをしました。子ども達が入ると、もの凄い数のトンボが飛び回り、セミが鳴いていました。子ども達にとって得がたい環境です。

6月20日(火)第1回森の音楽会でした。音楽科の学生によるバイオリンとピアノ、それにピアノの連弾でした。0歳児からみんな30分ぐらいの演奏を聴く事ができました。テンポの速い楽しい曲になると全員が身体を揺らしながら大喜びでした。



＊保護者の皆さまに学生の就職に関する情報提供をしております

2017年度大学後援会総会(5月27日)及び地区後援会(8月26日 福島・8月27日山形・9月2日盛岡・9月3日青森・9月10日秋田)にて、保護者の皆さまに2016年度卒業生の各学科の就職率・主な就職先・業種や職種の傾向、などをお知らせしました。

地区後援会では、各地区出身で且つ勤務地がその地区、あるいはご縁のある企業に内定を得た4年生(ジュニアアドバイザー)の体験談を、インタビュー形式で行いました。特に1~3年生の保護者の皆さまは、離れて暮らしているお嬢さんのこれからの就活をどのように応援し、見守るのかについて、参考にさせていただいたようです。

尚、今年度も「保護者のための就職支援セミナー」を予定しております。どうぞご参加いただけますようご案内申し上げます。



2017年度「保護者のための就職支援セミナー」

日時 2017年11月4日(土) 13:00~16:30(予定)

場所 本学講義館 C201教室およびキャリア支援センター

お申込み方法 ご案内を各ご家庭に郵送しておりますので裏面の申込書をFAX、またはメールにてお申込みください

お問い合わせ先 キャリア支援センター TEL:(022) 279-4957 FAX:(022) 279-4555 E-mail:career-c@mgu.ac.jp

＊大学・同窓会連携授業「宮城学院同窓会軽井沢山荘」を実施しました

宮原育子先生担当の一般教育・特殊研究の授業で日本の代表的観光地の1つとして「軽井沢」を取り上げるといふ繋がりから、5月29日(月)に2名の同窓生岩井陽子元同窓会長、佐藤美千代様が招かれ、「宮城学院同窓会軽井沢山荘」について授業を展開しました。

長年、山荘の運営と維持管理に尽力された岩井陽子元会長からは山荘を寄贈下さったハンセン・リンゼイ両先生に始まる歴史、軽井沢在住の外国人宣教師との関係、山荘運営上のポリシーや色々なエピソードが語られ、学生の皆さんは初めて聴く歴史の重さと学校の素晴らしさに感激していました。

佐藤美千代さんは、夏休み1ヶ月間ボランティアとして山荘に住み込み、宿泊客の食事、掃除、洗濯、買い物を取り仕切って味わった様々な苦労もさることながら、現地の商店街の方々などがすぐに自分を信用して接してくれたのは、山荘に関わった歴代の同窓生が立派で、地元の皆様に評価されていたお蔭だと思い、宮城学院の卒業生であることを誇りに感じたと語ってくれました。

学生さん達にはTV「和風総本家」でも放送された軽井沢彫りのイスやテーブルも紹介し、大学・同窓会連携の授業を終了しました。



**小** 学校の教諭を目指し、たきっかけは、父が小学校教諭で、卒業生という関係築いているのを見ていたからです。また小学校のときの先生が物静かな私をいつも気にかけてくれたことで自分を出せるようになり、「私もこんな先生になりたい」と思いました。

夢を持ち続け、宮城学院女子大学児童教育学科に入学。1年次から教員採用試験に向けて、苦手なマット運動をできるようにするまで練習したり、先生に相談したり、同じ目標をもつ友人たちと一緒に頑張りました。

念願の採用試験に合格したときは「いよいよ先生になるんだ」という期待と不安と胸がいつぱいに。新任1年目は、学級づくり、全科目の授業と学校行事の準備、子どもたちの喧嘩の解決、さらに週に何時間もの初任者研修があり、やることは山積みでした。それでも、子どもと関われる仕事できて、子どもたちが本当に可愛いくて、

無我夢中でした。大変だったのは、クラスには、いろいろな子どもがいるので、普通に授業を進めることが難しかったことです。それでも、周りの補助を受け、子どもと信頼関係を築くうちに状況は改善していききました。1年目は初めてのことがばかりで失敗の連続でしたが、先輩教諭から「落ち込む前に動け」「子どもたちが頑張れるように、褒め言葉を増やしていこう」という助言をもらい「へこんでいる暇はない」と気持ちを切り替えました。何か問題が起きて、管理職や先輩教諭に相談して一丸となって対策に取り組みます。ときには父にも相談します。悩みなながらも、たくさんいい出会いがあり、応援されて前に進めたことが、今の土台となり、糧になっています。

今年で3年目になり、仕事もたくさんまかせてもらえるようになり、運動会では、子どもと相談しながら作り上げ

て、保護者の方に「感動した」と喜んでくれたのは特にうれしかったです。

教諭として心がけているのは、話すより、まずは聞くこと。教えるより、子どもたちに考えさせること。何か課題を投げかけると、子どもたちは思いがけない新しい発見をします。当番や係などの役割を与えること、素晴らしい活躍をします。子どもたちが成長して、イキイキと活躍する姿をみるのは何よりの喜びです。

今後は、子どもたちにとってほしいかという理想像をさらに明確にして、そのためにどんな指導が必要かを考えて具体化していきたい。今も密な関係が続いている児童教育学科の友人たちやゼミの先生、そして信頼できる先輩教諭、同僚に支えられ、大切な子どもたちの成長を全力で支えていきたいです。



宮本 瞳さん

2014年度 宮城学院女子大学児童教育学科卒業  
仙台市立長命ヶ丘小学校 教諭

宮城県仙台市生まれ。宮城県泉館山高等学校を卒業し2011年4月、宮城学院女子大学児童教育学科に入学。大学祭の実行委員を務める。小学校と幼稚園の両方の教員免許を取得。2015年4月から仙台市立長命ヶ丘小学校に赴任。趣味はスポーツ観戦、音楽。小学校時代はピアノを習い、中学・高校時代は吹奏楽部でクラリネットを演奏。

## 子どもたちが輝く未来のために「教える」より「引き出す」教諭に

## 「食へることは生きること」を体感し「管理栄養士として復興を支援



商品価値を高めて消費者が欲しいものをつくります

「食へることは生きること」を体感し、もっと生きる力になる食事を提供したいと思いました。災害派遣の終了後も復興支援に携わりたくて、仙台市が委託する復興支援施設「東北ろっけんパーク×仙台なびつく」のスタッフになりました。そこで物産市の店頭販売を経験し、商品を作るには、研究・分析をして売れる商品づくりが必要だと感じました。

そして、仙台市産業振興事業団や復興庁で専門家として登録できたのも、IkiZenの代表理事になったのも、東北ろっけんパークでの実績やつながりがあり、周りから背中を押されたからでした。最初は管理栄養士にできることがあるのかと思いましたが、話を聞くと自分がやりたいことにつながっていました。

メインは商品開発です。東北にはいい商品があっても、営業やアピールは得意ではありません。しかも震災から復興するには、地域の中小企業がそれぞれ

頑張っても中央まで届きません。そこで、毛利元就の「三本の矢の教え」のように、1社ではなくエリア全体でまともなモノづくりの良さをアピールしていく、そのお手伝いをしていきます。これまで、石巻市の水産加工業社の「伊達なさんき極」の商品開発、丸森町の特産品「へそ大根」の食べ方提案や販路拡大の支援、女川町の「いちじく茶」のパッケージ企画などを手掛けてきました。主婦と同じ目線で、今家庭の食卓で何が求められているかを掘り下げ、買いたくなるモノづくりを提案しています。

今年「東京スーパーマーケット・トレードショー」の復興支援ブースに続いて「全国消防救助技術大会」の飲食ブース「宮城復興グルメパーク」のコーディネートを担当しました。震災時に活躍してくれた全国の消防隊員の方々が再び宮城に集結して救助技術を競う姿を、とても感慨深く拝見しました。

また、出店の方が、ガン宣告をうけて入院中に震災に遭い、津波から命からがら逃げて商売を再開するまでの話を聞き、病氣も克服して元気に販売する姿を見て、心から良かったと思いました。

「食同源」という言葉が好きです。食は元気の源であり、細胞、健康を作る、それを様々なカタチで伝えていきたい。自分たち独自の売り場も持ちたいです。待つ時期があっても、時間がかかっても必ず出口にたどりつけるよう歩みを止めずいたい。全力で取り組んだことは、いつか財産になると信じて歩き続けます。

**短** 大の家政科食物専攻を卒業した翌年に結婚しました。約10年間は主婦業と子育てに集中し、子どもたちの小学校入学を機に復職。委託給食の会社で実務経験を積んで管理栄養士の国家資格を取得しました。

転機は2011年の東日本大震災でした。日本栄養士会の災害派遣で通算45日間、気仙沼市、石巻市の避難所で支援活動を行いました。そのとき、目標や希望を失った人たちの顔が、温かい味噌汁一杯で変わるのを目の当たりにしたのです。

「食へることは生きること」を体感し、もっと生きる力になる食事を提供したいと思いました。災害派遣の終了後も復興支援に携わりたくて、仙台市が委託する復興支援施設「東北ろっけんパーク×仙台なびつく」のスタッフになりました。そこで物産市の店頭販売を経験し、商品を作るには、研究・分析をして売れる商品づくりが必要だと感じました。

そして、仙台市産業振興事業団や復興庁で専門家として登録できたのも、IkiZenの代表理事になったのも、東北ろっけんパークでの実績やつながりがあり、周りから背中を押されたからでした。最初は管理栄養士にできることがあるのかと思いましたが、話を聞くと自分がやりたいことにつながっていました。

メインは商品開発です。東北にはいい商品があっても、営業やアピールは得意ではありません。しかも震災から復興するには、地域の中小企業がそれぞれ

頑張っても中央まで届きません。そこで、毛利元就の「三本の矢の教え」のように、1社ではなくエリア全体でまともなモノづくりの良さをアピールしていく、そのお手伝いをしていきます。これまで、石巻市の水産加工業社の「伊達なさんき極」の商品開発、丸森町の特産品「へそ大根」の食べ方提案や販路拡大の支援、女川町の「いちじく茶」のパッケージ企画などを手掛けてきました。主婦と同じ目線で、今家庭の食卓で何が求められているかを掘り下げ、買いたくなるモノづくりを提案しています。

今年「東京スーパーマーケット・トレードショー」の復興支援ブースに続いて「全国消防救助技術大会」の飲食ブース「宮城復興グルメパーク」のコーディネートを担当しました。震災時に活躍してくれた全国の消防隊員の方々が再び宮城に集結して救助技術を競う姿を、とても感慨深く拝見しました。

また、出店の方が、ガン宣告をうけて入院中に震災に遭い、津波から命からがら逃げて商売を再開するまでの話を聞き、病氣も克服して元気に販売する姿を見て、心から良かったと思いました。

「食同源」という言葉が好きです。食は元気の源であり、細胞、健康を作る、それを様々なカタチで伝えていきたい。自分たち独自の売り場も持ちたいです。待つ時期があっても、時間がかかっても必ず出口にたどりつけるよう歩みを止めずいたい。全力で取り組んだことは、いつか財産になると信じて歩き続けます。



齋藤 由布子さん

1988年度 宮城学院女子短期大学家政科食物専攻卒業  
一般社団法人 IkiZen 代表理事

宮城県仙台市生まれ。宮城学院高等学校を卒業後、宮城学院女子短期大学家政科食物専攻に入学。2002年管理栄養士国家資格を取得。2015年5月、一般社団法人 IkiZen代表理事に就任。商品開発、販路拡大や広報支援などを行う。6次産業化プランナー派遣専門家登録。お酒、そば、温泉が好き。

## 2017年度予算の概要

- 2017年度、大学は現代ビジネス学部新設を含む4学部9学科に改組されて2年目となり教育及び学生支援の更なる充実を図り、中学・高校は英語教育・音楽教育・グローバルスタディーズの教育改革三本柱の教育計画を推進し、認定こども園は昨年11月から幼保連携型認定こども園森のこども園を新園舎とともに開園し乳幼児教育の本格的な始動となります。
- 2017年度新入学生生徒等数については、予算編成上第4次中期財政計画に掲げる確保目標計画数(大学774名、高校128名、中学60名、こども園132名)を基本として現状を踏まえた修正を加え、大学は774名、大学院10名、高校128名、中学53名、こども園126名とし全学生生徒等合計3,582名としました。
- 2017年度予算の学生生徒等納付金は、大学は昨年度からの納付金改定と学生数増により前年度予算比37,955千円増、中学・高校は生徒数増と実習費増により前年度予算比31,905千円増となり、法人全体で前年度予算比82,114千円増となります。経常費等補助金は法人全体として前年度予算比51,925千円増を見込み、教育活動収支における教育活動収入計は前年度予算比84,197千円増となっています。教育活動収支はまさしく本業である学校本来の教育研究活動によるものであり、単年度において学

校運営がどのようになっているかを容易に把握できるものです。健全な学校運営において教育活動収支差額はプラスであることが重要ですが、2017年度は前年度予算比66,529千円増の11,162千円となり教育活動収支差額はプラスとなります。

- 基本金組入前当年度収支差額は昨年度予算比96,582千円減の62,710千円、当年度収支差額は前年度予算比112,709千円減の△241,463千円となりました。
- 特別事業計画として、給水設備ポンプ及び制御盤更新工事、体育館低層部屋上防水更新工事、グラウンド改修、体育実習室床の改修等の経年劣化対応による施設設備の改修・修繕工事として63,359千円を計上し、臨時的事業計画としては、大学は証明書自動発行機システム更新、視聴覚設備の更新及び情報教室機器更新、中学・高校は机・椅子の更新、オーケストラ班の楽器購入等として70,062千円を計上しました。
- 過年度の学生生徒数減少の影響がしばらく残るため、学院全体の収支状況が改善するにはなお数年の時間を要しますが、2017年度は、大学、中学・高校とも学生生徒数が増加する見込みであり減少の底を打ったと思われます。今後、本格的な回復基調とすべくあらゆる方策を講ずることが肝要となります。

## 2017年度予算

## 資金収支予算書

(単位:千円)

収入の部			
科目	本年度予算額	前年度予算額	増減(△)
学生生徒等納付金収入	3,594,994	3,512,880	82,114
手数料収入	59,743	64,238	△ 4,495
寄付金収入	50,051	90,208	△ 40,157
補助金収入	658,435	736,510	△ 78,075
資産売却収入	0	0	0
付随事業・収益事業収入	26,962	24,809	2,153
受取利息・配当金収入	121,498	124,252	△ 2,754
雑収入	61,632	98,790	△ 37,158
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	653,659	630,163	23,496
その他の収入	384,361	678,723	△ 294,362
資金収入調整勘定	△ 663,979	△ 717,507	53,528
前年度繰越支払資金	1,727,881	2,110,540	△ 382,659
収入の部合計	6,675,237	7,353,606	△ 678,369
支出の部			
科目	本年度予算額	前年度予算額	増減(△)
人件費支出	2,827,533	2,878,452	△ 50,919
教育研究経費支出	910,505	844,141	66,364
管理経費支出	224,003	247,741	△ 23,738
借入金等利息支出	1,615	2,507	△ 892
借入金等返済支出	160,840	160,840	0
施設関係支出	36,582	355,123	△ 318,541
設備関係支出	90,072	80,946	9,126
資産運用支出	762,067	805,570	△ 43,503
その他の支出	307,811	352,330	△ 44,519
(予備費)	10,000	10,000	0
資金支出調整勘定	△ 101,470	△ 111,925	10,455
翌年度繰越支払資金	1,445,679	1,727,881	△ 282,202
支出の部合計	6,675,237	7,353,606	△ 678,369

## 事業活動収支予算書

(単位:千円)

科目				本年度予算額	前年度予算額	増減(△)
教育活動収支	収入の部	学生生徒等納付金	3,594,994	3,512,880	82,114	
		手数料	59,743	64,238	△ 4,495	
		寄付金	32,687	43,889	△ 11,202	
		経常費等補助金	653,435	601,510	51,925	
		付随事業収入	3,337	324	3,013	
	雑収入	61,632	98,790	△ 37,158		
	教育活動収入計	4,405,828	4,321,631	84,197		
	支出の部	人件費	2,830,236	2,862,617	△ 32,381	
		教育研究経費	1,295,736	1,225,183	70,553	
		管理経費	268,694	289,198	△ 20,504	
徴収不能額等		0	0	0		
教育活動支出計		4,394,666	4,376,998	17,668		
教育活動収支差額	11,162	△ 55,367	66,529			
教育活動外収支	収入の部	受取利息・配当金	121,498	124,252	△ 2,754	
		その他の教育活動外収入	0	0	0	
		教育活動外収入計	121,498	124,252	△ 2,754	
		支出の部	借入金等利息	1,615	2,507	△ 892
			その他の教育活動外支出	0	0	0
	教育活動外支出計	1,615	2,507	△ 892		
	教育活動外収支差額	119,883	121,745	△ 1,862		
	経常収支差額	131,045	66,378	64,667		
	特別収支	収入の部	資産売却差額	0	0	0
			その他の特別収入	27,665	188,914	△ 161,249
特別収入計			27,665	188,914	△ 161,249	
支出の部			資産処分差額	0	0	0
			その他の特別支出	86,000	86,000	0
特別支出計		86,000	86,000	0		
特別収支差額		△ 58,335	102,914	△ 161,249		
(予備費)		10,000	10,000	0		
基本金組入前当年度収支差額		62,710	159,292	△ 96,582		
基本金組入額合計		△ 304,173	△ 288,046	△ 16,127		
当年度収支差額	△ 241,463	△ 128,754	△ 112,709			
前年度繰越収支差額	△ 1,468,422	△ 1,339,668	△ 128,754			
翌年度繰越収支差額	△ 1,709,885	△ 1,468,422	△ 241,463			
(参考)						
事業活動収入計	4,554,991	4,634,797	△ 79,806			
事業活動支出計	4,492,281	4,475,505	16,776			

## 2016年度決算について

2016年度の決算は、5月23日の理事会及び評議員会において承認されました。

2016年度決算について、学生生徒数確保は各部門とも依然として厳しい状況ですが、2016年度新入生は全体として2015年度より増加し、大学学費改定に伴い納付金は増額となりました。教育活動収支はまさしく本業である学校本来の教育研究活動によるもので、その教育活動収支差額は基本的にはプラスであるべきですが、2016年度法人全体としては△23,394千円のマイナスの結果となりました。しかし、教育活動外収支差額は121,606千円のプラス、経常収支差額は98,212千円のプラスとなりました。

これからも宮城学院は、更なる教学改革を進め、将来に向けて永続的に発展、成長していくための財政基盤の強化を目指します。

2016年度決算の主な内容は次の通りです。

## 1.事業活動収支計算書

当該会計年度の収支を経常的な収支と特別な収支(臨時的収支)に区分し、経常的な収支については、本業である教育活動収支と、財務活動を中心とする教育活動外収支に分けて、内容を明らかにするとともに、当該会計年度の基本金組入額を控除して事業活動収入及び事業活動支出の均衡の状態を明らかにすることを目的としています。

## (1)教育活動収支

教育活動収入計は、昨年比290,306千円増の4,455,126千円となりました。特に差異の大きかった科目は、学生生徒等納付金で昨年比197,157千円増の3,530,394千円となり、学部部門の学費改定に伴う授業料等が増額になったこと、全体として2016年度新入生が増加となったことによるものです。

教育活動支出計は、昨年比182,317千円増の4,478,520千円となりました。人件費は昨年比176,162千円増の2,932,058千円となり、これは退職者が多かったことと、学部学科改組及びこども園開設に伴う教員数が増加したことなどにより増加となりました。教育研究経費は昨年比2,777千円の増の1,238,582千円となりました。管理経費は昨年比2,550千円の増の304,931千円となりました。これは、こども園建設に伴う用品購入、派遣職員増員などによるものです。

教育活動収入計から教育活動支出を差し引いた教育活動収支差額は、昨年比107,989千円増の△23,394千円となりました。

## (2)教育活動外収支

教育活動外収入計は、全て受取利息・配当金で昨年比15,704千円減の123,520千円となりました。教育活動外支出計は全て借入金等利息で1,914千円です。

以上により、教育活動外収支差額は、昨年比15,080千円減の121,606千円となりました。

## (3)特別収支

特別収入計は、昨年比130,818千円増の157,147千円となりました。これは、その他の特別収入の内の施設設備寄付金に、創立130周年記念事業募金の内の施設設備関係に指定された寄付金971千円、施設設備補助金には、こども園建設関係の施設整備費補

助金として139,788千円が交付されたものです。こども園建設に関わる補助金は、こども園建設は2015年度着工2016年度完成の工事となったことで、2016年度は交付予定150,000千円の中の139,788千円が交付されたものです。他に現物寄付が4,313千円となりました。

特別支出計は、94,266千円となりました。これらは、資産処分差額が8,226千円、その内訳は図書除却8,210千円が主なものです。その他の特別支出は86,040千円で主に退職給与引当金特別繰入額となりました。

以上、特別収入計から特別支出計を差し引いた特別収支差額は62,881千円となりました。

(4)基本金は全体で225,500千円を組入れました。第1号基本金には森のこども園建設工事及び施設改修等の特別・臨時事業計画実施による固定資産取得を組入れし、旧幼稚園園舎の基本金251,417千円を、こども園園舎等の固定資産432,706千円の一部に振替えました。第2号基本金では「森のこども園建設資金」からは、2016年度に森のこども園建設関係で支出された固定資産取得の122,429千円を第1号基本金に振替えています。また「学術情報館建設資金」は50,000千円を組入れし、「宮城学院施設拡充資金」は創立130周年記念事業募金による寄付金の内、施設設備関係に指定された寄付金971千円を組入れました。第2号基本金は結果として合計77,124千円の組入れ戻しとなっています。第3号基本金は、奨学金基金24,629千円及び教育基金1,450千円の計26,079千円を組入れました。

(5)当年度収支差額は△64,407千円となり、翌年度繰越収支差額は△1,344,056千円となりました。

## 2.資金収支計算書

当該会計年度に行う諸活動に対応する全ての収入及び支出の内容並びに当該会計年度における支払資金(現金及びいつでも引き出すことができる預貯金をいう。)の収入及び支出のてん末を明らかにすることを目的としています。

(1)2016年度の資金収入は、前年度繰越支払資金2,249,007千円を含めた資金収入全体が7,534,335千円となり、前年度と比べて9,369千円減となりました。資金収入から支出合計5,773,210千円を控除した次年度繰越支払資金は、1,761,145千円となり、前年度と比較し487,862千円の減となりました。

(2)収入の部では、学生生徒等納付金収入、手数料収入、寄付金収入は事業活動収支計算書の収入と同じです。新入生数に關係する納付金等の前受金収入は学生生徒数の減少により昨年比1,581千円減の676,499千円となりました。その他の収入には、各引当特定資産からの取崩収入が含まれています。

(3)支出の部では、人件費支出には退職金支出238,805千円が含まれています。借入金等返済支出は、さくら寮の建設資金借入返済を含め160,840千円となっています。施設関係支出は394,470千円で、前年度と比べ151,609千円の増ですが、これは、こども園建設関係工事が主なものです。設備関係支出は前年度比29,123千円増の77,768千円となりました。資産運用支出は、減価償却引当資産に、2015年度から募集した創立130周年記念事業募金寄付金の内、固定資産取得に関わらない事業の寄付金18,550千円を「130周年記念事業引当特定資産」として、また、30,960千円を

「学科設置等準備資金引当特定資産」として繰入れしました。

3.貸借対照表は、資産の部、負債の部、純資産の部で構成され、当該年度末の財政状態を表すことを目的としています。

(1)資産の部は、合計23,803,763千円となり、前年度末23,763,223千円から40,540千円増となりました。有形固定資産は前年度末12,086,512千円から21,461千円増の12,107,973千円、特定資産は前年度末8,778,320千円から248,613千円増の9,026,933千円、その他の固定資産は前年度末525,279千円から17,271千円増の542,550千円となりました。なお、流動資産は前年度末2,373,112千円から246,805千円減の2,126,307千円となりました。

(2)負債の部は、固定負債の長期借入金が1,258,520千円、流動負債の短期借入金が160,840千円等により負債の部合計は、前年度末3,486,797千円より120,552

千円減の3,366,245千円となりました。

(3)純資産の部の基本金は、全体で21,781,574千円となり、前年度末比で第1号基本金は174,500千円増、第2号基本金は77,124千円減、第3号基本金は26,079千円の増です。繰越収支差額の翌年度繰越収支差額は、△1,344,056千円となりました。

(4)資産の部合計23,803,763千円から負債の部合計3,366,245千円を差し引いた純資産の部合計は20,437,518千円となり、純資産構成比率(旧会計基準:自己資金構成比率)は前年度とほぼ同率の85.8%となりました。また、運用資産の蓄積度を示す内部留保資産比率は、31.1%(前年度31.7%)とほぼ同率です。なお、新学校法人会計基準で新設された積立率(運用資産/要積立額)は、学校法人の将来の確定的債務や奨学金の原資となる基金について、どの程度保有資産の裏付けがあるかを示す比率であります。88.5%となりました。

## 2016年度決算

## 貸借対照表

(単位:千円)

資産の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
固定資産	21,677,456	21,390,111	287,345
有形固定資産	12,107,973	12,086,512	21,461
特定資産	9,026,933	8,778,320	248,613
その他の固定資産	542,550	525,279	17,271
流動資産	2,126,307	2,373,112	△ 246,805
資産の部合計	23,803,763	23,763,223	40,540

負債の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
固定負債	2,357,470	2,486,419	△ 128,949
流動負債	1,008,775	1,000,378	8,397
負債の部合計	3,366,245	3,486,797	△ 120,552

純資産の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
基本金	21,781,574	21,607,075	174,499
繰越収支差額	△ 1,344,056	△ 1,330,649	△ 13,407
純資産の部合計	20,437,518	20,276,426	161,092
負債及び純資産の部合計	23,803,763	23,763,223	40,540

## 資金収支計算書

(単位:千円)

収入の部			
科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	3,512,880	3,530,394	△ 17,514
手数料収入	64,238	56,581	7,657
寄付金収入	90,208	49,978	40,230
付随事業収入	324	1,371	△ 1,047
補助収入	736,510	782,863	△ 46,353
資産売却収入	0	0	0
付随事業・収益事業収入	24,809	31,297	△ 6,488
受取利息・配当金収入	124,252	123,520	732
雑収入	98,790	181,447	△ 82,657
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	630,163	676,499	△ 46,336
その他の収入	678,723	842,453	△ 163,730
資金収入調整勘定	△ 717,507	△ 989,704	272,197
前年度繰越支払資金	2,110,540	2,249,007	△ 138,467
収入の部合計	7,353,606	7,534,335	△ 180,729

支出の部			
科目	予算	決算	差異
人件費支出	2,878,452	2,986,167	△ 107,715
教育研究経費支出	846,268	857,557	△ 11,289
管理経費支出	253,106	266,753	△ 13,647
借入金等利息支出	2,507	1,914	593
借入金等返済支出	160,840	160,840	0
施設関係支出	355,409	394,470	△ 39,061
設備関係支出	81,787	77,768	4,019
資産運用支出	805,570	858,917	△ 53,347
その他の支出	352,330	275,599	76,731
(予備費)	(8,619)		
(予備費)	1,381		1,381
資金支出調整勘定	△ 111,925	△ 106,795	△ 5,130
翌年度繰越支払資金	1,727,881	1,761,145	△ 33,264
支出の部合計	7,353,606	7,534,335	△ 180,729

## 事業活動収支計算書

(単位:千円)

科目				予算	決算	差異
教育活動収支	収入の部	学生生徒等納付金	3,512,880	3,530,394	△ 17,514	
		手数料	64,238	56,581	7,657	
		寄付金	43,889	54,101	△ 10,212	
		経常費等補助金	601,510	631,572	△ 30,062	
		付随事業収入	324	1,371	△ 1,047	
	雑収入	98,790	181,107	△ 82,317		
	教育活動収入計	4,321,631	4,455,126	△ 133,495		
	支出の部	人件費	2,862,617	2,932,058	△ 69,441	
		教育研究経費	1,227,310	1,238,582	△ 11,272	
		管理経費	294,563	304,931	△ 10,368	
徴収不能額等		0	2,949	△ 2,949		
教育活動支出計		4,384,490	4,			

# 創立130周年記念事業募金者芳名

【2017年2月1日～2017年3月31日受付分】  
◎募金総額 85,168,541円 (2014年4月1日～2017年3月31日)

<p><b>一般・法人</b></p> <p>金1,000,000円 丸善雄松堂株式会社仙台支店様</p> <p>金100,000円 長谷川体育施設(東北支店)様 株式会社東誠社様</p> <p>金40,000円 キリスト教学校教育同盟 関東地区協議会様</p> <p>金20,000円 関 宗蔵様</p> <p>金10,000円 仙台五橋教会様 工藤 一郎様</p>	<p><b>大学</b></p> <p>金10,000円 千葉 美月様 遠藤 葵様 阿部 久様 森 尚之様 菅野 浩三様 匿名1名様</p> <p><b>高等学校</b></p> <p>金10,000円 匿名1名様</p> <p><b>中学校</b></p> <p>金10,000円 匿名1名様</p>	<p><b>同窓会</b></p> <p>金50,000円 大久 詔子様</p> <p>金30,000円 鈴木 まゆみ様 亀井 あかね様</p> <p>金20,000円 匿名2名様</p> <p>金12,159円 音楽科31回生有志様</p> <p>金10,000円 佐野 春子様 ボヴェ 関倫子様 橋浦 たか子様 紺野 裕子様 只野 雅美様 匿名1名様</p>	<p><b>役員・教職員・旧教職員</b></p> <p>金2,000,000円 宮城学院女子大学教員組合様</p> <p>金500,000円 宮城 光信様</p> <p>金300,000円 匿名2名様</p> <p>金30,000円 佐藤 祐見子様</p> <p>金20,000円 匿名1名様</p>
--	---	---	---

# 教育環境整備資金

【2017年4月1日～2017年9月30日受付分】  
◎募金総額 5,834,400円 (2017年9月30日現在)

<p><b>一般・法人</b></p> <p>金60,000円 中国語学習会様</p> <p><b>大学</b></p> <p>金468,400円 門間 政彦様</p> <p>金50,000円 匿名1名様</p> <p>金30,000円 綾部 隆英様 宮崎 徹様</p> <p>金20,000円 齋藤 登則様 小池 達哉様 永山 進様 若山 良子様 吉村 謙一様 飯坂 勝幸様 渡辺 雅彦様 内藤 光保様 内野 勝様 平塚 瑞実様 板橋 昭一様 齋藤 浩清様 鈴木 守様 菅原 直秋様 塚本 任様 八鍬 悦子様 樫村 重慶様 遠藤 祐実様 佐藤 優衣様 阿部 剛様 小林 琢朗様 三浦 信宏様 遠藤 恒夫様 佐藤 弘夫様</p>	<p>鈴木 晴彦様 佐々木 努様 増森 俊文様 星 繁様 金沢 善幸様 斉藤 巧様 菅野 真衣様 奥田 由紀子様 船田 真由様 及川 春奈様 匿名8名様</p> <p>金10,000円 高橋 正明様 三上 恵二様 吉崎 主計様 結城 治勇様 齋藤 明男様 菊池 啓之様 井上 広志様 菊地 成年様 福島 一也様 佐藤 由貴様 三浦 宏様 野坂 美緒様 小山 貴子様 吉田 真久様 高橋 孝次様 佐藤 知香様 鈴木 隆之様 土岐 彰様 稲山 佳那様 森岡 ゆかり様 佐藤 真一様 村山 喜久雄様 及川 暖海様 高橋 英喜様 匿名4名様</p> <p>金5,000円 大野 悦男様</p>	<p>千葉 祐己様 小野寺 健司様</p> <p>金3,000円 山本 ささら様</p> <p><b>高等学校</b></p> <p>金200,000円 渡辺 睦生様</p> <p>金60,000円 遠藤 博光様</p> <p>金50,000円 菊田 浩之様 守谷 武彦様 黒田 秀一様</p> <p>金40,000円 高橋 俊光様</p> <p>金20,000円 浅野 勝志様 佐藤 一切様 角田 純子様 須藤 憲司様 近江 克規様 菊地 浩一様 匿名7名様</p> <p>金10,000円 小山 重人様 匿名3名様</p> <p>金5,000円 今野 幸輝様 後藤 優子様 千葉 智美様</p> <p>金2,000円 石川 七瀬様</p>	<p><b>中学校</b></p> <p>金50,000円 菊田 浩之様 菅井 厚志様</p> <p>金30,000円 高山 義朋様</p> <p>金20,000円 岩城 芳義様 小山内 ゆき様 友田 真吾様 武者 昌洋様 岩田 英典様 鈴木 流良様</p> <p>金10,000円 笹森 傑様 匿名1名様</p> <p>金5,000円 小幡 夏美様 後藤 純子様</p> <p><b>同窓会</b></p> <p>金100,000円 小川 愛子様 匿名1名様</p> <p>金10,000円 齋藤 能子様 匿名1名様</p> <p><b>役員・教職員・旧教職員</b></p> <p>金1,000,000円 宮城 光信様</p> <p>金500,000円 嶋田 順好様</p> <p>金300,000円 平川 新様</p>	<p>金200,000円 本田 辰雄様</p> <p>金100,000円 遠藤 安彦様 太田 富美子様 匿名2名様</p> <p>金80,000円 宮原 育子様</p> <p>金50,000円 伊藤 幸子様 モリスジョン様 匿名1名様</p> <p>金30,000円 匿名2名様</p> <p>金20,000円 菅澤 美保様 渡部 美紀子様 高橋 聡子様</p> <p>金10,000円 正司 純子様 匿名1名様</p> <p>金1,000円 David Franklin Goldberg様</p> <p><b>こども園</b></p> <p>金20,000円 阿部 一彦様</p>
--	--	---	--	--

皆様のご理解とご協力に深く感謝し、厚く御礼申し上げます。

## 【今回の表紙】ステンドグラス

礼拝堂には、キリストの「降誕」「十字架」「昇天」の3枚のステンドグラスが織り成す「聖なる光」が降り注ぐ。1980年にフランスのステンドグラス作家ガブリエル・ロワールが制作したこれらのステンドグラスには宮城学院の校章が描きこまれるなど、随所に宮城学院らしさがあらわれている。

